

## 第 15 回香川県がん診療連携協議会議事要旨

日 時：令和 4 年 8 月 3 1 日（水） 1 7：0 0～1 8：1 0

場 所：香川県社会福祉総合センター 7 階 特別会議室

出席者：別紙のとおり

### 議 事

仁尾香川大学医学部医療支援課長から、配布資料の確認の後、香川県がん診療連携協議会設置要綱第 5 条に基づき、本協議会会長の門脇香川大学医学部附属病院長が議長（以下、門脇議長という）となり、本協議会議事進行する旨、説明があった。

議事に先立ち、門脇議長、久米川香川県医師会長から挨拶があった。

門脇議長から、第 14 回香川県がん診療連携協議会議事要旨について確認が行われ、原案どおり了承された。

### 1. 審議事項

#### (1) 香川県がん診療拠点病院等の現状と今後について

辻委員から、現在香川大学医学部附属病院、香川県立中央病院、高松赤十字病院、香川労災病院、三豊総合病院が「がん診療連携拠点病院」の役割を担っており、この中の多くの施設では、がんのゲノム医療の拠点病院との連携病院の役割も担っている。近年、ゲノム検査等の広がりがあり、当院へも多数依頼があるが、県の西部地域でゲノム検査を実施する際、核となる病院まで距離があるため件数に反映されず、このことが現在のがん治療の均てん化の問題点となっていると考える。「四国こどもとおとなの医療センター」、「高松市立みんなの病院」等にも可能であれば仲間に入っただき、がん治療の均てん化を進めていきたいとの提案があった。

三好委員から、国から示されている整備指針の中に診療連携拠点病院指定要件に一定の診療実績が必要であること等が定められており、「四国こどもとおとなの医療センター」、「高松市立みんなの病院」の 2 病院が要件を満たすかどうか確認が必要である旨意見があった。

辻委員から、県独自の指定の場合、要件は不要であると伺っており、他県では拠点病院と同程度の県指定病院があるため、本県でも是非拡充いただきたい旨意見があった。

三好委員から、現時点では本県ではこのような制度を即導入する予定はないが、他県の事例を参考にしつつ必要性があれば導入の可否について検討したい旨回答があった。

門脇議長から、この件に関しては、香川県と香川大学医学部附属病院にて引き続き相談する旨説明があり了承された。

## (2) 香川県がん診療連携協議会部会員の変更及び部会長の互選について

辻委員から、現在、「地域連携・パス部会」は香川県立中央病院の青江先生、「相談支援部会」は高松赤十字病院の山本先生にそれぞれ部会長をお願いしている。しかし、「院内がん登録部会」「研修・教育部会」「情報・広報部会」が長らく固定のままで部会長の入れ替えがなく、当方が3つの部会長を掛け持ちしている状況であるため、他のいろいろな先生方のご意見も頂戴して活性化させるべく、部会長の改選をお願いしたい旨説明があった。

審議の結果、それぞれの部会にて検討することです承された。

## 2. 報告事項

### (1) 第15回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会

辻委員から、6月30日(木)にオンライン形式にて開催された「第15回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会」について、配布資料の議事次第に基づき説明があり、がん診療連携拠点病院等の整備指針について、指定要件等の見直しや新たな要件の検討内容についての報告、また、がん登録部会、情報提供・相談支援部会、緩和ケア部会からそれぞれ活動報告があったこと、また、今後の都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会のあり方について議論がなされ、都道府県単位の診療の質の改善に向けた方策や、地域のがん医療の状況に関する実態の把握、地域の連携体制の効率化の仕組み等について検討を進めることとなった旨報告があった。本県でも拠点病院を支援するための放射線医療機器の助成等も利用して、多施設が拠点病院に手挙げし、がんの診療をしっかりと支える施設が増えてほしい旨意見があった。

国土委員から、県指定の拠点病院とは、地域がん診療連携拠点病院のことであるか、その場合、グループ指定で隣接するがん診療連携拠点病院との連携を指している、我々病院との連携を指しているのか質問があった。

辻委員から、どちらかの拠点病院との連携を持ち、チームとしてがん診療の均てん化を進めていく病院というイメージである旨回答があった。

### (2) 香川県がん診療連携協議会各部会からの報告

#### ① 地域連携・パス部会からの報告

青江部会長から、資料に基づき、専門部会とパス部会の開催状況等、名簿の変更内容等、各パスの連携状況等について報告があった。各専門部会から、パスを作って11年目となり、メンバーもかなり交代しているため、基幹病院で広報活動をしてほしいとの意見があった。また、当初、「がん診療連携拠点病院（香川大学、県中、日赤）」からそれぞれ同じかかりつけ医の先生に診療情報を共有する際、使い勝手を考慮して統一してパスを作ったが、他県（地域）を参考に、柔軟に対応したい。特に肺がんのパスに関しては、香川大学に矢島教授が着任され、前大学（群馬大学）で使用されていた地域連携

パスと系統が異なるため、2種類作成することとなった。各専門部会については、今年の12月を目途に、がん種によってガイドライン、規約等を変更予定である。今年は、医師会、香川県、K-MIX+の業者参加のもと、連携パスを双方向に電子カルテ化するパス運用について検討した旨報告があった。

#### ② 院内がん登録部会からの報告

辻部会長から、資料に基づき、実務者会及び研修会の開催状況、2020年診断症例の院内がん登録件数、2013-2014年診断症例5年相対生存率についての報告があった。「公表データ」にある生存率は、各病院で対象となる患者の内容が大きく異なること、ここで示した生存率が単純に当該都道府県のがん医療の優劣ではないという注意書きの元でこのデータが出されていることに留意するよう説明があった。また、昨年度報告(2012-2013年)との比較データについて、特に肺非小細胞の80歳以上が前回は19.5%に対して今回は22.5%(305件)に増えている。UICCTNM分類ステージ別件数については、肝臓がんステージⅡが、香川県で前年度31.0%(113件)が約3%減少し28.0%(93件)となった旨、追加報告があった。

#### ③ 緩和医療部会からの報告

中條部会長から、資料に基づき、2021年度の取り組み目標、研究会・セミナー等、PEACEの緩和ケア研修会がコロナの第5波と第6波の合間をぬって11月～12月頃に集中して集合研修が実施され、今年度も1日のWeb研修後に1日の対面による集合研修の形態は維持されること、また、昨年度、緩和ケア研究会の関係者を主体とした構成メンバーで、緩和ケア実務者会議を立ち上げた旨報告があった。最後に緩和ケアチームの活動実績について、昨年度、非がんの症例が少ないながらも以前より増えてきている傾向がある(心不全、呼吸不全、小児の症例等)、香川大学での生存で介入終了が27名とあるが、恐らくがん治療のサポート(支持療法)の患者が一定数いるため、その患者さんが症状緩和すれば終了ということであろうかと考える。昨年度の緩和ケア病棟実績については、例年に比べて病床使用率が少ないように見えるが、コロナの影響を受けているものと推察する旨報告があった。

#### ④ 相談支援部会からの報告

山本部会長から、資料に基づき、相談支援部会実務者連絡会の活動状況、がん相談員研修・交流会の開催状況及びアンケート結果、ピア・サポート医療従事者向け研修会の開催状況、地域相談支援フォーラム in 四国の開催状況について報告があり、研修会の開催の効率等も考慮し、香川県単独では実施や対応が困難な事項に対して、四国単位で推進するよう四国ブロック会を設置し、設置に関する申し合わせ事項等を作成した旨説明があった。また、長期療養者等に対する就職支援事業、治療と仕事の両立支援、コロナの影響

による相互評価の中止、PDCA 実施状況チェックリストの見直し、その他昨年度及び今年度の取り組みについてそれぞれ報告があった。

#### ⑤ 研修・教育部会からの報告

辻部会長から、資料に基づき、がんプロの目的について報告があった。中四国のがんプロフェッショナル教育プランがこの地域では活発に活動していたが、がんプロの予算が今年度1年間凍結されており、補助金がない状況で研修会等を開催する等、大学院を各大学が維持している。補助金が出ないことが決まった時点で、厚労省に全国のがんプロ協議会から申し入れをしたが、的を得た回答は得られなかった。研修・教育部会では、今後も継続的にがん医療従事者を養成する、それはがんプロだけではなく、通常の大学や病院等で働いている方の専門性をさらに高め、資格取得を応援する、また、研修計画の作成を新たに行いたい、地域によっては、診療支援がないとがん診療ができない病院も多々あるので、診療支援医師の派遣調整を行っていく。今年度の取り組みとしては、中四国広域がんプロフェッショナル養成プランにおいて、昨年度まで実施されていたものについて、予算をかけず、基本的に Web で維持する、また、e-learning のコンテンツもデータを管理するクラウドの維持費がないため、各大学折版により維持したり、クラウドの会社が不足を寄付してくれた経緯もあった。集中講義については、実施可能であるため、オンサイトで行えるものについては、早めに連絡し参加を促したい。また、今後医師会報及び各拠点病院から情報収集し、フィードバックする予定である旨報告があった。

#### ⑥ 情報・広報部会からの報告

辻部会長から、資料に基づき、情報・広報部会の検討事項について、セカンドオピニオンの情報提供が協議会のホームページに掲載されていること、また、がん医療に関する情報交換・広報・普及啓発について、各病院の状況説明があった。コロナ蔓延の状況下にあって、広報やみんなと会っての情報交換等は難しい状況であるが、年末に向けてコロナが落ち着いてくれば、以前のような形で密な交流を考えている旨意見があった。

#### (3) 香川県より

香川県健康福祉部上原主幹から、資料に基づき、以下の説明があった。

##### ① 香川県がん患者医療用補正具助成事業について

事業の概要、補助対象者、補助対象となる医療用ウィッグ・乳房補正具、対象期間、補助金額、申請に必要な書類の説明があった。特に、補助対象者のうち(3)で、購入時の年齢が20歳から39歳のまで方とする年齢要件を設けているが、この理由としては、がん患者の方への公的な支援制度として、20歳未満の方は「小児慢性特定疾病医療費助成」が受けられ、一方、40歳以上の方は介護保険が適用されるが、20歳から39歳の方は利用できる公的支援がない

ため本県では、他の公的支援制度がない 20 歳から 39 歳の若年がん患者の方を対象とし、助成を行うこととしたものである。また、受付状況については、2 か月に一度開催されている、相談支援部会の実務者連絡会において報告し、予算額上限に近づいてきた段階で、各相談支援センターに対し、適宜、状況を共有する予定としている旨、補足説明があった。

#### ②かがわ県小児・AYA 世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業について

本県では、令和元年度から、県単独事業として、がん患者等の妊孕性温存治療費の助成事業を実施してきたこと、国の実施要綱に基づき、「香川県がん・生殖医療連携ネットワーク」を構築し、医療従事者向けの研修会を実施するなどの取組みを行っていることの説明があった。8 月 1 日付けで厚生労働省が定める「がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針」が改正され、がん診療連携協議会の役割のひとつとして、がん・生殖医療に関することが明記された旨、追加報告があり、県としては引き続き、対象者が適切な妊孕性温存療法を受けられる体制の整備と相談支援体制の確保に向けて、各関係機関の連携を図りたいため、各拠点病院への協力依頼があった。

#### ③香川県におけるピア・サポートの取組みについて

背景、今年度の取組みについて説明があり、「がん患者の相談支援等に関する情報交換会」について、7 月 15 日情報交換会を県庁及びオンラインにて開催し、終了後のアンケートにて、継続して開催を望む意見が寄せられていたため、今後も年 1 回程度、このような機会を設けたいこと、また「ピア・サポート研修会」の開催について、現在、患者会によるピア・サポートは、それぞれの患者会活動の中で、実施されているが、今後は、病院等でも活動できるよう、各拠点病院への協力依頼があった。

#### ④令和 4 年度香川県がん患者ニーズ調査の実施について

目的、調査対象、実施方法、調査期間について説明があり、前回は香川大学に調査を委託したが、今回は予算上の制約もあり、委託は行わず、県自らが調査を実施すること、各病院担当者に調査用紙の配付・回収の協力依頼があった。

また、8 月 1 日付けで「がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針」の改正について厚生労働省から通知があり、各病院においては、引き続きの指定に向け、改正後の指針に定める要件等についての確認依頼があり、手続に必要な書類の提出については、国から連絡があり次第、依頼する旨、追加報告があった。

## 第15回香川県がん診療連携協議会出席者名簿

	団体名	職名	氏名	備考
1	香川大学医学部附属病院	病院長	門脇 則光	会長
2		副病院長（がんセンター長）	辻 晃仁	院内がん登録部会長、情報・広報部会長、研修・教育部会長
3		がんセンター 副センター長	岡野 圭一	
4		麻酔・ペインクリニック科 准教授	中條 浩介	緩和医療部会長
5	香川県立中央病院	副院長	川上 公宏	
6		副院長	青江 基	地域連携・バス部会長
7		診療支援課長	野崎 峰範	
8	高松赤十字病院	院長	西村 和修	
9		副院長（第一呼吸器科部長）	山本 晃義	相談支援部会長
10		地域医療連携課	石橋 武	
11	香川労災病院	病院長	吉野 公博	
12		副院長	國土 泰孝	
13		総務課員	藤本 耕平	
14	三豊総合病院	副院長	前田 宏也	
15	四国こどもとおとなの医療センター	小児血液・腫瘍内科 医長	今井 剛	
16	香川県医師会	会長	久米川 啓	
17		常任理事	谷本 雅人	
18	香川県健康福祉部	部長	三好 謙一	
19		医療調整監	星川 洋一	
20	香川県健康福祉部 健康福祉総務課	課長	藤倉 健生	
21		主幹(兼)課長補佐	上原 恭江	
22		がん対策グループ 主任	福家 繁	
23		がん対策グループ 主任	森 真太郎	
24		がん対策グループ	杉本 利江子	
25	香川大学医学部	医療支援課長	仁尾 善久	
26		医療支援課長補佐	大西 利次	
27		医事課診療情報管理係主任	大橋 知実	
28		医療支援課医療連携支援係長	成重 亜希子	
29		医療支援課医療連携支援係	小川 ひとみ	